

# 油汚染土 微生物で浄化

鹿島ら9社グループ

## 経産省らの適合確認を取得

汚染土壌に油分解菌を添加し  
浄化する。幅広い濃度の汚染  
に対応が可能だ



(大阪市北区、  
中原蔵社長)が  
共同開発した。

軽油から重油  
までの各種鉱物  
由来油とベンゼ  
ンを効率的に分  
解するため、米  
国で開発された  
微生物剤を使  
い、汚染土壌な  
どの油分を浄化  
する。油分解菌  
は、世界最大の  
生物資源バンク  
である米国・A  
TCCによる安  
全性基準でレベ  
ル1を満たす。

掘削した汚染土壌を浄  
化ヤードに移し、微生物  
剤を添加。通常の汚染状  
態であれば1〜3カ月で  
二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)と  
水に分解できる。微生物  
処理では難しい高濃度汚  
染(含有量・1kgあたり  
5000〜5万mg)も  
効率よく分解・浄化でき  
る性能を持つ。

低温加熱処理や廃棄処  
分、対象地に生息する微  
生物を使った浄化など従  
来方法と比較し、トータ  
ルコストの削減や浄化期  
間の短縮などが見込め  
る。バイオ社が微生物剤  
の品質管理と供給を担  
い、残る8社が浄化工事  
を担当する。米国から輸  
入した種菌を国内で純粋  
培養し利用する。

喜代美社長)、東電環境  
エンジニアリング(東京  
都港区、細川忠士社長)、  
日本基礎技術、日本国土  
開発、バイオ・シエネシ  
ステクノロジージャパン

遺伝子レベルの解析でも  
病原性菌と近種でないこ  
とを確認している。

鹿島ら9社グループ  
は、微生物を活用し土壌  
に含まれた油分を浄化す  
る新技術で、経済産業、  
環境両省が定める「微生  
物によるバイオレメディ  
エーション利用指針」の  
適合確認を取得した。石  
油精製所やガソリンスタ  
ンドの閉鎖、燃料タンク  
からの漏油事故などをタ  
ーゲットに浄化工事の受  
注を狙う。

4種の油分解菌を用い  
た土壌浄化工法は鹿島の  
ほか、ケミカルグライフ  
(東京都港区、伊地正博  
社長)、大興物産(東京  
都港区、石川元道社長)、  
地崎道路(東京都港区、  
丹野義明社長)、建基興  
業(埼玉県八潮市、市村